

主要農作物施肥基準

平成 2 5 年 3 月

埼玉県農林部農業支援課

まえがき

土づくりは農業の基本であり、本県では、昭和49年度から合理的な輪作の推進や有機物の施用などによる「土づくり運動」を展開してきました。

また、土壌診断に基づく適正な施肥を推進し、農業の生産安定に努めてきました。

今回改訂を行った主要農作物施肥基準は、昭和57年に策定され、平成元年に改訂が行われていますが、その後見直しがなされないままでした。

改訂を行った平成元年から現在までに、栽培体系や品種も大きく変わりました。

県では平成9年度から「彩の国有機100倍運動」を展開し、環境保全型農業の推進を図ってきました。この中では、化学肥料使用料の半減を目標に地域の有機質資源の活用に取り組んできました。

また、多肥や家畜ふん堆肥等の多量施用による土壌養分のアンバランスな蓄積や地下水汚染などの問題も生じてきました。

さらに、肥料の価格高騰やリン資源の枯渇なども問題となっています。

そこで、平成23年度と24年度の2年間をかけて、これらに対応した新たな施肥基準を作成することとなりました。

基準の作成に当たっては、試験研究機関や農業者団体のこれまでに蓄積されたデータを活用しました。また、従来の施肥基準にない品目や施肥体系を見直すべき品目については、適正施肥現地実証ほの設置や施肥実態調査を行い、改訂の基礎資料としました。

これらの基礎資料をもとに、試験研究機関や農業者団体とともに検討を重ね、新たな主要農作物施肥基準を作成しました。

今後、この基準を関係者の方々に活用いただき、本県の持続的な農業の発展と環境に優しい農業の推進に御尽力をお願いいたします。

平成25年3月

埼玉県農林部農業支援課

課長 福井 純 夫

目 次

I	施肥基準の利用上の注意		1	
II	作物別施肥基準		2	
1	水稲・麦・大豆		2	
①	水稲	2	②麦類	6
③	大豆	1 0		
2	野 菜		1 1	
①	きゅうり	1 1	②なす	1 2
③	トマト・ミニトマト	1 3	④いちご	1 4
⑤	にがうり	1 5	⑥えだまめ	1 6
⑦	さやいんげん	1 7	⑧スイートコーン	1 8
⑨	ねぎ	1 9	⑩わけねぎ	2 0
⑪	たまねぎ	2 1	⑫ほうれんそう	2 2
⑬	こまつな	2 3	⑭さんとうさい	2 4
⑮	はくさい	2 5	⑯キャベツ	2 6
⑰	しゅんぎく	2 7	⑱レタス	2 8
⑲	カリフラワー	2 9	㉔ブロッコリー	3 0
㉑	たいさい	3 1	㉒のらぼうな	3 2
㉓	だいこん	3 3	㉔かぶ	3 4
㉕	にんじん	3 5	㉖さつまいも	3 6
㉗	さといも	3 7	㉘やまといも	3 8
㉙	葉しょうが	3 9	㉚くわい	4 0
㉛	うど	4 1		
3	果 樹		4 2	
①	なし	4 2	②ぶどう	4 4
③	くり	4 5	④すもも	4 6
⑤	うめ	4 7	⑥ゆず	4 8
⑦	キウイフルーツ	4 9	⑧いちじく	5 0
⑨	ブルーベリー	5 1		

4	花・植木		5 2
①	しろくじゃく	5 2	
③	てっぽうゆり	5 4	
⑤	すかしゆり(ＯＨ・ＬＨ)	5 6	
⑦	ストック	5 8	
⑨	とさみずき(枝物)	6 0	
⑪	べにぎきしまつつじ(枝物)	6 2	
⑬	うめ(植木)	6 4	
⑮	かいずかいぶき(植木)	6 6	
⑰	おおむらさきつつじ(植木)	6 8	
⑱	もみじ(植木)	7 0	
②	きく		5 3
④	すかしゆり		5 5
⑥	チューリップ		5 7
⑧	キンギョソウ		5 9
⑩	ぼけ(枝物)		6 1
⑫	しのぶひば(枝物)		6 3
⑭	うめ(鉢物)		6 5
⑯	つばき(植木)		6 7
⑰	どうだんつつじ(植木)		6 9
⑳	いぬつげ(植木)		7 1
5	茶		7 2
①	茶(成木園)	7 2	
6	飼料作物		7 3
①	とうもろこし	7 3	
③	牧草類：イタリアライグラス	7 5	
⑤	飼料用イネ(ＷＣＳ用イネ)	7 7	
②	ソルガム		7 4
④	麦類：エン麦		7 6
⑥	飼料用米		7 8
Ⅲ	適正施肥を進めるための基準		7 9
1	県下主要耕地土壌の土壌管理目標値		7 9
2	減肥基準		8 2

I 施肥基準の利用上の注意

- 1 本施肥基準は、本県の主要農作物等の代表的な作型について、標準的な土壌（土壌改良目標値を満たしている土壌）において、目標とする収量・品質を確保するために必要な肥料成分量の目安を示したものである。
- 2 本施肥基準は、施用上の一つの指針として用いるものである。
従って、具体的な施肥設計に当たっては、塩基バランスや可給態リン酸の改善を行い、前作の窒素、リン酸、カリの残存量も考慮して、施肥量を決めることが重要である。
- 3 堆肥の施用に当たっては、堆肥に含まれる有効成分量を適切に評価し、施肥設計に組み入れることで過剰施肥を防止する。
また、農作物の生育にあった土壌環境を整えるため土壌の物理性、化学性、生物性を改良する土づくりを励行する。
- 4 本施肥基準では、適正施肥を進めるための参考として、土壌管理目標値と減肥基準を併記した。

Ⅱ 作物別施肥基準

1 水稻・麦・大豆

① 水 稻

【栽培暦】

作型等	品種	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
(稚苗) 早期栽培	コシヒカリ				○ ◆ ◎	◇		◇		×				480
(稚苗) 早植栽培	コシヒカリ				○ ◆ ◎	◇		◇		×				450
	キヌヒカリ				○ ◆ ◎	◇		◇		×				480
	彩のほほえみ				○ ◆ ◎			◇	◇	×				500
	彩のみのり				○ ◆ ◎			◇	◇	×				500
	彩のかがやき				○ ◆ ◎			◇	◇	×				500
	日本晴				○ ◆ ◎			◇	◇	×				480
(中苗) 普通栽培	キヌヒカリ					○ ◆ ◎		◇		×				450
	彩のほほえみ					○ ◆ ◎		◇		×				480
	彩のみのり					○ ◆ ◎		◇		×				480
	彩のかがやき					○ ◆ ◎		◇		×				480
	日本晴					○ ◆ ◎		◇		×				450
(稚苗) 早植栽培	峰の雪もち				○ ◆ ◎		◇	◇		×				510
	へいせいもち				○ ◆ ◎		◇	◇		×				510
(中苗) 普通栽培	峰の雪もち					○ ◆ ◎		◇		×				450
	へいせいもち					○ ◆ ◎		◇		×				450
(中苗) 普通栽培	さけ武蔵					○ ◆ ◎		◇		×				400
(5月中下旬播) 湛水土壤中 直播栽培	キヌヒカリ				◆ ○			◇	◇	×				480
(6月上旬播) 湛水土壤中 直播栽培	キヌヒカリ					◆ ○			◇	×				450

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型等	品種		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
(稚苗) 早期栽培	コシヒカリ	基肥	3.0	6.0	3.0	施用時期 田植後10～15日 施用時期 出穂前18日
		追肥1	2.0	2.0	2.0	
		追肥2	2.5		2.5	
		合計	7.5	8.0	7.5	
(稚苗) 早植栽培	コシヒカリ	基肥	2.0	6.0	2.0	施用時期 田植後10～15日 施用時期 出穂前18日
		追肥1	2.0	2.0	2.0	
		追肥2	2.5		2.5	
		合計	6.5	8.0	6.5	
(稚苗) 早植栽培	キヌヒカリ	基肥	5.0	5.0	5.0	施用時期 田植後40日頃 施用時期 出穂前20～23日
		追肥1	2.0	2.0	2.0	
		追肥2	2.0		2.0	
		合計	9.0	7.0	9.0	
(稚苗) 早植栽培	彩のほほえみ	基肥	5.0	5.0	5.0	*暫定値 施用時期 田植後40日頃 施用時期 出穂前18～20日
		追肥1	2.0	2.0	2.0	
		追肥2	3.0		3.0	
		合計	10.0	7.0	10.0	
(稚苗) 早植栽培	彩のみのり	基肥	5.0	5.0	5.0	施用時期 田植後40日頃 施用時期 出穂前18～20日
		追肥1	2.0	2.0	2.0	
		追肥2	3.0		3.0	
		合計	10.0	7.0	10.0	
(稚苗) 早植栽培	彩のかがやき	基肥	5.0	5.0	5.0	施用時期 田植後40日頃 葉色が4.5を下回った場合 施用時期 出穂前22～23日 葉色が4.0を下回った場合 施用時期 出穂前10日 追肥2を行っても葉色が4.0を下回った場合
		(追肥1)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
		追肥2	3.0		3.0	
		(追肥3)	(2.0)		(2.0)	
		合計	8.0	5.0	8.0	
(稚苗) 早植栽培	日本晴	基肥	5.0	5.0	5.0	施用時期 田植後40日頃 施用時期 出穂前22～23日
		追肥1	1.5	1.5	1.5	
		追肥2	2.5		2.5	
		合計	9.0	6.5	9.0	
(中苗) 普通栽培	キヌヒカリ	基肥	5.0	5.0	5.0	施用時期 出穂前20～23日
		追肥	3.0		3.0	
		合計	8.0	5.0	8.0	
(中苗) 普通栽培	彩のほほえみ	基肥	5.0	5.0	5.0	施用時期 出穂前18～20日
		追肥	3.0		3.0	
		合計	8.0	5.0	8.0	
(中苗) 普通栽培	彩のみのり	基肥	5.0	5.0	5.0	施用時期 出穂前20日
		追肥	3.0		3.0	
		合計	8.0	5.0	8.0	
(中苗) 普通栽培	彩のかがやき	基肥	5.0	5.0	5.0	施用時期 出穂前25日頃 葉色が4.0を下回った場合 施用時期 出穂前10日 追肥を行っても葉色が4.0を下回った場合
		追肥	2.0		2.0	
		(追肥2)	(2.0)		(2.0)	
(中苗) 普通栽培	日本晴	基肥	6.0	6.0	6.0	施用時期 出穂前20～23日
		追肥	3.0		3.0	
		合計	9.0	6.0	9.0	
(稚苗) 早植栽培	峰の雪もち へいせいもち	基肥	6.0	6.0	6.0	施用時期 田植後35～40日頃 施用時期 出穂前20～23日
		追肥1	2.0	2.0	2.0	
		追肥2	3.0		3.0	
		合計	11.0	8.0	11.0	
(中苗) 普通栽培	峰の雪もち へいせいもち	基肥	6.0	6.0	6.0	施用時期 出穂前20～23日
		追肥	3.0		3.0	
		合計	9.0	6.0	9.0	
(中苗) 普通栽培	さけ武蔵	基肥	3.0	3.0	3.0	施用時期 出穂前15日
		追肥	2.0		2.0	
		合計	5.0	3.0	5.0	
(5月中下旬播) 湛水土壤中 直播栽培	キヌヒカリ	基肥	4.0	6.0	4.0	施用時期 2～3葉期 *苗立数50～60本/㎡と少なかった場合 施用時期 7～8葉期 施用時期 出穂前20～23日
		(追肥1)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
		追肥2	2.0	2.0	2.0	
		追肥3	3.0		3.0	
		合計	9.0	8.0	9.0	
(6月上旬播) 湛水土壤中 直播栽培	キヌヒカリ	基肥	6.0	6.0	6.0	施用時期 2～3葉期 *苗立数50～60本/㎡と少なかった場合 施用時期 出穂前20～23日
		(追肥1)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
		追肥2	3.0		3.0	
		合計	9.0	6.0	9.0	

(施肥基準使用上の留意点)

- 1 この施肥基準は農林総合研究センター水田農業研究所の成績に基づき、速効性化学合成肥料を使用した場合の数値である
- 2 農林総合研究センターの土壌は灰色低地土、乾田、土性は埴壤土(CL)～軽埴土(LiC)、CECは12～14me/100gである。
- 3 原則的に記載してある施肥量を上限とし、圃場の肥沃度や肥持ちにより施肥量を調節する。
- 4 穂肥は葉色票及びヨード反応による診断を行い、施肥量を調節する。

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 有機物施用・土壌改良資材施用

表を参考に有機物や土壌改良材の施用を積極的に行う。

資材名	投入量(10a当たり)、注意点
堆肥	完熟した堆肥を1～1.5トン施用する。
稲わら	排水不良田を除き、できるだけ切断し秋期にすき込む。一毛田では春耕の際、二毛作田では麦播き前の耕起時に行う。 分解促進のため、一毛田では石灰窒素を稲わら100kg当たり5kg程度散布する。
麦わら	麦わらは搬出し有効利用を図る。ただし、日減水深20mm以上のほ場ではすき込んでよい。
ケイカル	100～120kg施用する。 倒伏防止、病害虫防除効果があるので、できるだけ施用する。
ヨウリン	20kg施用する。 特に火山灰土では効果が高いので積極的に施用する。

注) 留意事項

- ア) 搬出した稲、麦わらは堆肥化して施用することが望ましい。
- イ) 麦わらをすき込んだ場合は、水稻の基肥窒素量を20～30%増肥する。
- ウ) 稲、麦わら連用3～5年後からは基肥窒素の増肥は必要ない。
- エ) 土壌診断を実施し、その結果から土壌改良資材を施用することが望ましい。

イ 耕うん

耕深は15cmを目標に、田面や耕盤に凹凸ができないように実施する。

注) 留意事項

- ア) 浅耕田の作土は、徐々に深くする。
- イ) 耕深が浅いと初期の過繁茂と秋落ち現象が見られ、更に登熟期の水分供給が不安定になる。
- ウ) 耕深が浅いと適正な植付株数を確保できない。

2 施肥

ア 緩効性肥料（被覆窒素肥料）利用上の留意点

施用後速やかに溶解して肥効を示す、いわゆる速効性肥料と異なり、緩効性肥料は肥料表面の被覆などの工夫により肥料の溶出期間や溶出パターンといった溶出特性をコントロールしている。肥料の溶出特性は銘柄により様々で、被覆肥料の施用効果を高めるためには品種や栽培体系、土壌にあった資材を選ぶ必要がある。水稻の必要とする養分と緩効性肥料から溶出する養分を上手に合わせることで、水稻が利用できる肥料分が増えるため、減肥や穂肥の省略が可能となる。

注) 留意点

- ア) 品種、栽培体系、土壌にあった溶出特性を示す肥料を選ぶ。
- イ) 倒伏や病気などにより品質の低下を招く恐れがあるため、移植栽培では必ず減肥を行う。
- ウ) 減肥量は圃場の肥沃度、土壌条件等に応じて加減する。減肥の目安は次のとおり。
 - a 早植の場合、全層施肥で1～2割、側条施肥では3割程度減肥する。
 - b 小麦あと等の普通期栽培の場合、全層施肥で2割程度、側条施肥では3割程度減肥する。
 - c 湛水土中直播栽培の場合、2～3葉期、7～8葉期追肥が省略できる。
 - d 乾田直播栽培の場合、肥沃度や減水深等の圃場条件により減肥量を調整する。
- エ) 原則として追肥は行わない（湛水直播を除く）。
- オ) 速効性肥料を施用した場合と比べ、幼穂形成期ごろでも葉色があまり低下しない。
- カ) 吸湿した状態で長時間経過すると肥料の溶出特性が変化するため、前年開封した肥料などは使用しない。

イ 有機質肥料の特徴と使用上の留意点

有機質肥料はその原料等により肥効率、発現速度が異なるので、分解が早く、かつ溶出率が70%以上となる肥料を選定する。なお、一般に市販されている有機質入り肥料の多くは、このような性能を有している。

一般的に、窒素（N）に比べ炭素（C）の含有率が高い（C／N比が高い）ほど分解する速度は遅く、逆に窒素に比べ炭素の含有率が低い（C／N比が低い）ほど分解は早く進む。

C／N比が低く分解が急速に進む資材は、土壌の異常還元等による生育障害をさけるため、移植の7～10日前に施肥し土壌とよく混和しておく。また、有機質肥料は肥効が長く続くため、穂肥として施用する場合は速やかに分解する資材を用い、速効性肥料の場合よりやや早めに施用し、食味の向上に努める。

また、肥効率向上や穂肥の省略を目的として有機質肥料と肥効調節型肥料を組み合わせる利用する場合には、作型に合った適正なタイプを選定する（2のア参照）。

なお、特別栽培のため有機入り配合肥料、有機入り複合肥料を使用する場合は、有機由来の窒素成分割合に充分注意する。

有機質肥料は、一般的に化成肥料よりも遅効的なため、過剰な施肥を行った場合、生育後半まで肥効が続き過繁茂による病害の助長や減収、玄米粗蛋白含量の増加を招く。特に低温年などは分解が遅れて影響が大きくなる恐れがある。

品種特性を発揮した良食味米生産のためには、化学肥料栽培より一層適切な施肥量を遵守することが重要である。

② 麦 類

【栽培暦】

作型等	品種	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
(水田作) 整地播 普通栽培	(小麦) 農林61号		◇				×					◆ ○		420
	あやひかり		◇				×					◆ ○		480
	さとのそら			◇	◇		×					◆ ○		480
				大型機械化体系の場合										
	(ビール大麦) 彩の星		◇				×				◆ ○			480
(水田作) ドリル播栽培	(六条大麦) すずかぜ		◇				×				◆ ○			460
	イチバンボシ		◇				×				◆ ○			500
(畑作) 整地播 普通栽培	(小麦) 農林61号		◇				×					◆ ○		400
	ハナマンテン		◇		◇		×					◆ ○		480
(畑作) ドリル播栽培	(六条大麦) すずかぜ		◇				×				◆ ○			460

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位:kg/10a

作型等	品種		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
(水田作)	小麦	基肥	7.0	7.0	7.0	
整地播	農林61号	追肥	1.0			施用時期 2月中下旬
普通栽培		合計	8.0	7.0	7.0	
(水田作)	小麦	基肥	8.0	8.0	8.0	
全面全層	農林61号	追肥	2.0			施用時期 2月中下旬
播栽培		合計	10.0	8.0	8.0	
(水田作)	小麦	基肥	8.0	8.0	8.0	
ドリル播栽培	農林61号	追肥	2.0			施用時期 2月中下旬
		合計	10.0	8.0	8.0	
(畑作)	小麦	基肥	6.0	6.0	6.0	
整地播	農林61号	追肥	(1.0)			施用時期 2月中下旬
普通栽培		合計	6.0	6.0	6.0	
			(7.0)			
(畑作)	小麦	基肥	5.0	5.0	5.0	
整地播	ハナマンテン	追肥1	2.0	2.0	2.0	施用時期 2月中下旬
普通栽培		追肥2	2.0	2.0	2.0	施用時期 4月上旬
		合計	9.0	9.0	9.0	
(畑作)	小麦	基肥	7.0	7.0	7.0	
ドリル播栽培	農林61号	追肥	(2.0)			施用時期 2月中下旬
		合計	7.0	7.0	7.0	
			(9.0)			
(畑作)	小麦	基肥	5.0	5.0	5.0	
ドリル播栽培	ハナマンテン	追肥1	2.0	2.0	2.0	施用時期 2月中下旬
		追肥2	2.0	2.0	2.0	施用時期 4月上旬
		合計	9.0	9.0	9.0	
(水田作)	小麦	基肥	8.0	8.0	8.0	
整地播	あやひかり	追肥	2.0			施用時期 2月中下旬
普通栽培		合計	10.0	8.0	8.0	
(水田作)	小麦	基肥	10.0	10.0	10.0	
全面全層	あやひかり	追肥	2.0			施用時期 2月中下旬
播栽培		合計	12.0	10.0	10.0	
(水田作)	小麦	基肥	8.0	8.0	8.0	
ドリル播栽培	あやひかり	追肥	2.0			施用時期 2月中下旬
		合計	10.0	8.0	8.0	
(水田作)	小麦	基肥	6.0	6.0	6.0	
ドリル播栽培	さとのそら	追肥	4.0			施用時期 出穂2週間前(4月上旬)
		合計	10.0	6.0	6.0	※大型機械化体系の場合 茎立ち直前(3月上旬)に3~4kg/10a
(水田作)	ビール大麦	基肥	5.0	5.0	5.0	
整地播	彩の星	追肥	2.0			施用時期 2月中下旬
普通栽培		合計	7.0	5.0	5.0	
(水田作)	ビール大麦	基肥	7.0	7.0	7.0	
ドリル播栽培	彩の星	追肥	2.0			施用時期 2月上中旬
		合計	9.0	7.0	7.0	
(水田作)	六条大麦	基肥	7.0	7.0	7.0	
整地播	すずかぜ	追肥	2.0			施用時期 2月中下旬
普通栽培		合計	9.0	7.0	7.0	
(水田作)	六条大麦	基肥	7.0	7.0	7.0	
ドリル播栽培	すずかぜ	追肥	2.0			施用時期 2月中下旬
		合計	9.0	7.0	7.0	
(畑作)	六条大麦	基肥	7.0	7.0	7.0	
整地播	すずかぜ	追肥	2.0			施用時期 2月中下旬
普通栽培		合計	9.0	7.0	7.0	
(畑作)	六条大麦	基肥	8.0	8.0	8.0	
ドリル播栽培	すずかぜ	追肥	2.0			施用時期 2月中下旬
		合計	10.0	8.0	8.0	
(水田作)	六条大麦	基肥	5.0	5.0	5.0	
整地播	イチバンボン	追肥	(2.0)			施用時期 2月中下旬
普通栽培		合計	5.0	5.0	5.0	
			(7.0)			
(水田作)	六条大麦	基肥	7.0	7.0	7.0	
ドリル播栽培	イチバンボン	追肥	(2.0)			施用時期 2月中下旬
		合計	7.0	7.0	7.0	
			(9.0)			

注) ()内は生育・気象状況に応じて施用する。

※灰色低地土やグライ土における水稻あと栽培のような低タンパクが懸念される場合は、出穂期追肥を加えた3回の分肥体系が望ましい。この場合の施肥量の目安は基肥4kg/10a、3月上旬追肥4kg/10a、出穂期追肥2~4kg/10aである。

(留意事項)

- 1 野菜後地等は土壌診断に応じて基肥施肥量を減らす。
- 2 稲わら、堆肥は本文及び別表-2を参照。
- 3 土壌酸度矯正及びリン酸施用は土壌診断により適正値なるよう努める。
pHは別表-1参照、土壌中の可給態リン酸の適正値:10~100mg/100g
- 4 追肥は生育状況に応じ増減して施用する。
特別栽培対応の有機質資材による追肥は、鶏ふん、豚ふんを中心に用いる。
- 5 緩効性肥料を利用する場合は1割程度減肥する。
- 6 転換畑初年目、2年目は1割程度減肥する。
固定転換畑等で地力の低下が懸念される圃場では積極的に有機物を活用し土づくりに努める。

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 稲わらの処理

ほ場外に搬出、堆肥化し施用する。

ほ場に直接還元する場合は8cm程度に切断して、均一にすき込む。

注) 留意点

ア) 透水性の悪い条件では入れない。

イ) 稲わらをほ場にすき込んだ場合は、ディスクタイプの播種機を用いる。

ウ) 春先にわらの分解による生育凋落が予想される場合は追肥を行う。

エ) わら重の5%の石灰窒素(30kg/10a)を散布すると分解が速まる。

(播種1週間前にすき込む)

イ 土壌改良資材施用

土壌診断を行いpH(KC1)5.5～6.0に矯正する。(別表参照)

注) 留意点

ア) 特に大麦は酸性土壌に弱いので注意する。

イ) 土壌診断を行い、可給態リン酸が基準(10mg/100g)以下の場合、土壌改良にリン酸質肥料を用いる。

別表－1) 苦土石灰施用量の目安(kg/10a、作土深10cm当たり)

	目標 pH	土 壌 の p H (K C 1)										
		4.2	4.4	4.5	4.6	4.8	5.0	5.2	5.4	5.5	5.6	5.8
多腐植質黒ボク土 (火山灰土)	6.0	620	600	570	550	500	420	320	250	200	150	80
	5.5	420	400	370	350	300	220	120	50			
腐植質黒ボク土 (火山灰土)	6.0	480	420	380	350	300	250	200	150	120	100	50
	5.5	360	300	260	230	180	130	80	30			
淡色黒ボク土 (火山灰土)	6.0	300	250	230	220	180	150	110	80	60	50	30
	5.5	240	190	170	160	120	90	50	20			
灰色及び褐色低地土 (沖積土)	6.0	300	240	220	200	160	130	100	80	60	50	20
	5.5	240	180	160	140	100	70	40	20			
粗粒質灰色低地土 及び褐色低地土 (砂質沖積土)	6.0	120	100	90	90	70	60	40	20	10	10	－
	5.5	110	90	80	80	60	50	30	10			

参考) 各種石灰質資材のアルカリ度と苦土石灰に対する換算表

	炭カル	生石灰	消石灰	珪カル
アルカリ度%	53	80	60	35
換算率	1	0.66	0.88	1.51

注) 施用量は苦土石灰施用量の目安に換算率を乗じて算出する。

ウ 有機物施用

有機物をできるだけ施用し、地力維持に努める。

注)留意点

ア) 堆きゅう肥、稲わら等をできるだけ施用し、地力維持に努める。

イ) 家畜ふん堆肥を施用する場合は、別表「家畜ふん堆肥の成分含有率と肥効率」を参考に基肥窒素量を減らす。

別表－2)家畜ふん堆肥の成分含有率と肥効率

畜種	現物当たり含有率				肥 効 率			基肥窒素 代替使用 割合
	水分	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
牛 ふん	55.6 %	1.0 %	1.4 %	1.9 %	25 %	70 %	90 %	30以内 %
豚 ふん	28.5	2.2	5.4	2.1	50	70	90	60以内
鶏 ふん	20.8	2.6	5.0	2.7	60	70	90	60以内

③ 大 豆

【栽培暦】

作型等	品種	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
麦あと栽培	タチナガハ						◆○							180
							◆○							180
	エンレイ						◆○							180
							◆○							180

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型等	品種		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
麦あと栽培 全面施用	タチナガハ エンレイ	基肥	3.0	10.0	10.0	
		追肥				
		合計	3.0	10.0	10.0	
麦あと栽培 条施用	タチナガハ エンレイ	基肥	3.0	10.0	10.0	
		追肥				
		合計	3.0	10.0	10.0	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 土壌改良資材

石灰施用により、pHを6程度に矯正する。

注) 留意点

ア) 石灰による酸度矯正は土壌診断を実施してから行う。また、作業労力面から原則として麦播種前に行うのがよい。

イ) 耕起前にライムソア等でほ場に全面散布し、耕土全体に均一に混層されるようにする。

別表) pHと苦土石灰の施用量

土性	土壌pH(KCl)					備 考
	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	
粘質	300	200	120	60	30	炭カルでは等量、 消石灰では0.9倍 を施用。
砂質	120	90	60	20	—	

2 野 菜

① きゅうり

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
きゅうり	促成	◇	◇	◇	◇	◇	◇	×				○	○	16,000
		—	×	—	—	—	—	×				○	○	
きゅうり	半促成	◆	○	×	(◇)	◇	◇	×						13,000 10,000
		○	○	×	—	—	—	×						
									(加温作型) (無加温作型)					
きゅうり	抑制							◆		◇	◇	◇	(◇)	5,000 6,000
									○	×	—	×	×	
									○	×	—	×	×	
きゅうり	越冬(短期)	◇	◇	×						○	◆	○	×	7,500
		—	—	×										

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
促成	本/10a 1,050~ 1,350	基肥	26	43	26	・追肥は、8~10回に分けて施用する。
		追肥	20	0	20	
		合計	46	43	46	
半促成	900~ 1,200	基肥	23	35	23	・追肥は、5~6回に分けて施用する。
		追肥	15	0	15	
		合計	38	35	38	
抑制	900~ 1,200	基肥	10	16	10	・追肥は、4回に分けて施用する。
		追肥	8	0	8	
		合計	18	16	18	
越冬 (短期)	900~ 1,200	基肥	12	20	12	・追肥は、4回に分けて施用する。
		追肥	10	0	10	
		合計	22	20	22	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 稲わら、もみ殻堆肥などの良質堆肥を3トン/10a施用する。

イ 夏期に太陽熱を利用した土壌消毒やたん水処理などを行い、土づくりと土壌病害虫を回避する。

2 施肥

ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決める。

イ リン酸、カリが過剰の場合は、低リン酸、低カリ肥料を活用する。

ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2~3週間前には施用し、よく土壌と混和しておく。

エ 親づるの雌花の肥大が始まるころから追肥を開始する。栄養診断技術も活用しながら、液肥で1回当たり窒素成分で2kg程度を施用する。

② なす

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
なす	半促成	—	◎	×	◇	◇	◇	×				○	◆	7,000
なす	トンネル早熟			◆	◎	×	◇	◇	◇	◇	◇	×	○	8,000
なす	露地	○	—	—	—	◎	×	◇	◇	◇	◇	×		7,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
半促成	本/10a 1,500	基肥	30	30	30	・追肥は、5～6回に分けて施用する。
		追肥	10	0	10	
		合計	40	30	40	
トンネル早熟	1,000	基肥	30	30	30	・追肥は、6回に分けて施用する。
		追肥	12	0	12	
		合計	42	30	42	
露地	650	基肥	30	30	30	・追肥は、4回に分けて施用する。
		追肥	8	0	8	
		合計	38	30	38	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 秋～冬の間に、稲わら、麦わら、あるいは家畜ふんなどの良質堆肥を2～3トン/10a施用する。
 イ 半促成栽培では、夏期に太陽熱を利用した土壌消毒を行い、土づくりと土壌病害虫を回避する。

2 施肥

- ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決める。
 イ 台木品種により吸肥力が大きく異なるので、トルバム等は基肥量を控える。
 ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2～3週間前には施用し、よく土壌と混和しておく。
 エ トンネル早熟・露地栽培では、定植後50日程度で収穫が安定したら追肥を開始するが、栄養診断技術も活用し、1回当たり窒素成分で2～4kg程度を施用する。

3 その他

- ア 定植期が低温期にあるので、早めのマルチなどで地温の上昇を図る。
 イ 露地栽培でも、常にかん水できるような環境を整え、降雨時には、表層水を速やかに排水できるようにする。

③ トマト・ミニトマト

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
トマト	促成	◇ —x	◇	◇	◇	◇		x	○	△	◆	◎		15,000
ミニトマト	長期越冬	◇	◇	◇◇	◇	◇	◇ x		◆	◎	x	◇◇	◇	10,000

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 x—x収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
促成	本/10a 1,800 ~2,000	基肥	15	25	15	・追肥は、5~6回に分けて施用する。
		追肥	15	5	15	
		合計	30	30	30	
ミニトマト 長期越冬	2,100~ 2,300	基肥	30	30	30	・追肥は、11月から計10回に分けて施用する。
		追肥	20	10	20	
		合計	50	40	50	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 稲わら、もみ殻堆肥などの良質堆肥を3トン/10a施用する。
- イ 夏期に太陽熱を利用した土壌消毒やたん水処理などを行い、土づくりと土壌病害虫を回避する。

2 施肥

- ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決める。
- イ リン酸、カリが過剰の場合は、低リン酸、低カリ肥料を活用する。
- ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2~3週間前には施用し、よく土壌と混和しておく。
- エ 栄養診断技術も活用しながら、液肥で1回当たり窒素成分で2kg程度を施用する。

④ いちご

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
いちご	促成	◇	◇	◇	○	—	—	△	—	—	—	×	—	4,000
		—	—	—	×	×	—	—	—	◎	—	—	×	
		—	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	×	

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
促成	本/10a	基肥	15	20	15	・追肥は、5～6回に分けて施用する。
	7,000	追肥	5	5	5	
	～7,600	合計	20	25	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 稲わら、もみ殻堆肥などの良質堆肥を3トン/10a施用する。
- イ 夏期に太陽熱を利用した土壌消毒やたん水処理などを行い、土づくりと土壌病害虫を回避する。

2 施肥

- ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決める。
- イ リン酸、カリが過剰の場合は、低リン酸、低カリ肥料を活用する。
- ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前には施用し、よく土壌と混和し高うねとする。
- エ 保温開始時期に追肥を開始する。栄養診断技術も活用して、液肥により1回当たり窒素成分量で1kg程度を施用する。
- オ 連続畦栽培では、基肥量を約3～4割程度削減し、合計で15kg/10aとする。

⑤ にがうり

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
にがうり	露地				○	◆	×		◇	◇	×			3,600

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
露地	本/10a 660	基肥	20	20	20	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	5	5	5	
		合計	25	25	25	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 稲わら、もみ殻堆肥などの良質堆肥を3トン/10a施用する。

2 施肥

ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決める。

イ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2～3週間前には施用し、よく土壌と混和しておく。

ウ 基肥量が多いと草勢が旺盛になり、雌花着性に悪影響を及ぼす。

エ 追肥は、肥切れとならないよう、収穫始めごろから数回に分けて行い、草勢の維持を図る。

⑥ えだまめ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
えだまめ	ハウス早熟		△ ○	◆ ◎	△	△	△	×	×					1,500
えだまめ	トンネル早熟			◆ ○	△	△	×	×						1,300
えだまめ	露地			◆	○			×	×					1,500

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス △トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数 本/10a		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
ハウス早熟	24,000	基肥	8	12	12	
		追肥	0	0	0	
		合計	8	12	12	
トンネル早熟	20,000	基肥	8	12	12	
		追肥	0	0	0	
		合計	8	12	12	
露地	22,000	基肥	10	12	12	
		追肥	0	0	0	
		合計	10	12	12	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥1トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

2 施肥

- ア 多肥では過繁茂となりやすいため、前作の残存肥料を考慮する。
イ 全量基肥とし、草勢を見ながら必要な場合は窒素成分で1~2kg程度施用する。
ウ マルチ栽培では、各成分とも1~2割程度減肥する。

⑦ さやいんげん

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
さやいんげん	露地抑制						◆ ○		◇	◇ ×	◇		×	1,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
露地抑制	本/10a 2,800	基肥	16	22	16	・追肥は、3回前後に分けて施用する。
		追肥	4	0	4	
		合計	20	22	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質堆肥2～3t/10aを施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

イ 比較的浅根で、乾湿に弱いため、有機質の投入等による十分な土づくりを行う。

ウ 連作による収量・品質の低下を防ぐため、マメ科作物の連作を避け、3～4年の輪作を行う。

2 施肥

ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。

イ 定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

ウ 追肥は着きょう期以降に2～3回に分けて、2～3週間おきに施用する。

⑧ スイートコーン

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
スイートコーン	トンネル早熟			◆ ○ ○	○	◇	×	×						1,200
スイートコーン	普通			◆ ○	○	◇	×	×						1,300

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ◯トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
トンネル早熟	本/10a 4,800	基肥	22	20	25	
		追肥	0	0	0	
		合計	22	20	25	
普通	4,000	基肥	20	18	18	
		追肥	0	0	0	
		合計	20	18	18	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3t/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 地力のある保水性の高いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。
- ウ 吸肥力が強いいため十分な肥効を保つ。

⑨ ねぎ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ねぎ	秋冬どり		○	×	○	◆※	◎	◎		◇	◇	◇	◇	4,000
ねぎ	春どり			×	○	○		◎	◎	◇	◇	◇	◇	4,000
ねぎ	夏どり		○	◆	◎	◎	◇	◇	×		×		○	3,200

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数 本/10a		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
秋冬どり	33,000 ~40,000	基肥	5	8	5	※6月中旬以降の定植は、基肥を施用しない。 ・水田等地力窒素が少ない場合は基肥を増肥。 ・追肥は、5~6回に分けて施用する。
		追肥	15	15	15	
		合計	20	23	20	
春どり	33,000 ~40,000	基肥	0	0	0	・基肥は施用しない。 ・追肥は、5~6回に分けて施用する。
		追肥	18	18	18	
		合計	18	18	18	
夏どり	33,000 ~40,000	基肥	13	15	13	・追肥は、生育に合わせ3~4回に分けて施用する。
		追肥	9	9	9	
		合計	22	24	22	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3t/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。
- ウ 多雨時や高温乾燥時の対策としてリビングマルチの導入が有効である。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料をまたは緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。
- ウ 高温多湿期の多肥は根への影響が大きく軟腐病、白絹病の多発につながるので注意する。

⑩ わけねぎ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
わけねぎ	冬どり							◆	◎	◇		◇	×	4,000

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
冬どり	株 /10a 9,000	基肥	10	18	8	
		追肥	12	8	10	
		合計	22	26	18	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3t/10aを施用する。
- イ 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

⑪ たまねぎ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
たまねぎ	秋まき マルチ													6,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a						
作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
秋まき マルチ	本/10a 24,000	基肥	20	28	20	
		追肥	0	0	0	
		合計	20	28	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3t/10aを施用する。
- イ 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 酸性土壌では、リン酸の肥効が劣るので注意する。
- ウ 球の肥大には適度な土壌水分が必要なため、適湿を保てる土づくりを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

⑫ ほうれんそう

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ほうれんそう	春まき		◆	○—x	○—x	○—x	○—x							1,250
ほうれんそう	夏まき 雨よけ					◆	△—x	△—x						1,000
ほうれんそう	秋まき	—x								◆	○—x	○—x	○—x	1,800
ほうれんそう	冬まき トンネル	∩	∩	∩	x	x						◆	∩	1,600

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ∩トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数 本/10a		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
春まき	5~6	基肥	11	12	11	
		追肥	0	0	0	
		合計	11	12	11	
夏まき 雨よけ	5~6	基肥	8	8	8	
		追肥	0	0	0	
		合計	8	8	8	
秋まき	8	基肥	20	22	18	
		追肥	0	0	0	
		合計	20	22	18	
冬まき トンネル	7~8	基肥	18	21	18	
		追肥	0	0	0	
		合計	18	21	18	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質堆肥2~3t/10aを施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

イ 多肥では過繁茂となりやすいため、前作の残存肥料を考慮する。

2 施肥

ア 全量基肥とし、草勢を見ながら必要な場合は窒素成分で1~2kg程度施用する。

イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

ウ マルチ栽培では、各成分とも1~2割程度減肥する。

⑬ こまつな

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
こまつな	ハウス周年		◆				◆			◆				1,200 ~ 1,800
			○	—	x x		○	x x		○	x x			
		—	x	x			○	x x		○	x x			
			x x									◆		
			○	—	x x							○		

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ▽トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
ハウス周年	10a 1~2	基肥	12	12	12	・1作の施肥量。
		追肥	0	0	0	・夏まきでは3~5割の減肥。
		合計	12	12	12	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3t/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 酸性には比較的強いが、pH5以下にはならないように注意する。

2 施肥

- ア 全量基肥とし施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。
- ウ 連作や生育期間の短い夏播きでは3~5割程度減肥する。
- エ リン酸の吸収効率の良い特性があるので、連作ではリン酸を減肥する。

⑭ さんとうさい

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
さんとうさい	秋まき									◆ ○◎	◇◇		××	8,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
秋まき	本/10a 3,000	基肥	25	25	25	・追肥は2回に分けて施用する。
		追肥	10	0	5	
		合計	35	25	30	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 根域が深くなるよう、膨軟な土層と排水がよく肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

2 施肥

- ア 肥料の吸収は、窒素やカリは多く、リン酸は比較的少ない。石灰の吸収は多く苦土は少ない。
- イ 生育初期の30日間は吸収量が少ないが、結球開始期から急速に増加する。
- ウ 結球開始期以降の吸収に備えて、追肥を行う。

⑮ はくさい

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
はくさい	秋まき	×								◆	◇			6,000
		○								◎		×		

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
秋まき	本/10a 3,500	基肥	20	20	20	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	8	0	5	
		合計	28	20	25	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。
- イ 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 根域が深くなるよう、膨軟な土層と排水がよく肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

2 施肥

- ア 窒素過剰は生育が軟弱となり病害の発生を助長する。しかし不足は収量減に繋がるので注意する。
- イ 生育初期の30日間は吸収量が少ないが、結球開始期から急速に増加する。
- ウ 平均気温13℃以下で花芽分化が始まり葉数が増加しないため、10月下旬までには追肥を終了させる。

⑯ キャベツ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
キャベツ	秋冬どり								○	◆	◇	◇	×	5,500
キャベツ	冬どり								○	◆	◇	◇	×	6,000
キャベツ	初夏どり		◇	◇							○	◆	◇	4,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数 本/10a		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
秋冬どり	4,000	基肥	15	18	15	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	5	0	5	
		合計	20	18	20	
冬どり	4,000	基肥	20	20	15	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	5	0	5	
		合計	25	20	20	
初夏どり	4,200	基肥	15	20	15	・追肥は、2～3回に分けて施用する。
		追肥	11	0	8	
		合計	26	20	23	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。
- イ 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 根の酸素要求量が高いので有機質の投入や深耕により土壌の通気性を高める。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。
- ウ 養分吸収は、窒素は外葉と結球葉に、石灰は外葉に多い。窒素、カリ、石灰は生育後半の吸収量が増加する。

⑪ しゅんぎく

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
しゅんぎく	秋まきハウス	◇	◇	◇							○	△	×	3,600
				×							◎			

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ▽トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
秋まき ハウス	本/10a 38,000	基肥	14	20	14	・元肥は、有機質または緩効性肥料主体とする。 ・追肥は、2～3回に分けて施用する。 ・追肥は、灌水を兼ねて液肥で施用する。
		追肥	6	0	6	
		合計	20	20	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

- ア 苗は活着するまで多肥には弱いので、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 施肥は基肥を中心に、追肥は株の状況を見て施用する。

⑱ レタス

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
レタス	秋まきハウス	×	×								○	◎	△	3,000
レタス	夏まき 秋どり								○	◆	◇	×	×	3,500

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ▽トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
秋まき ハウス	本/10a 6,500	基肥	25	25	23	
		追肥	0	0	0	
		合計	25	25	23	
夏まき 秋どり	6,500	基肥	20	18	20	
		追肥	0	0	0	
		合計	20	18	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

ア 苗は活着するまで多肥には弱いので、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。

イ 秋まきハウス栽培では、きゅうりの後等前作の残肥がかなりある場合は減肥する。

⑱ カリフラワー

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
カリフラワー	夏まき 秋冬どり	×						○	○	◆	◇	◇	×	2,400

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a						
作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
夏まき 秋冬どり	本/10a 3,500	基肥	15	24	15	・基肥は、緩効性肥料を施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	8	0	8	
		合計	23	24	23	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

②0 ブロッコリー

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ブロッコリー	早春まき トンネル	○	◆ ○	○	×	×								1,200
ブロッコリー	夏まき 秋冬どり				×				○	◆ ○	◇	◇	×	1,200

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ◡トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
早春まき トンネル	本/10a 3,500 ~4,000	基肥	16	20	16	・基肥は、緩効性肥料を施用する。
		追肥	0	0	0	
		合計	16	20	16	
夏まき 秋冬どり	3,000	基肥	10	14	10	・基肥は、緩効性肥料を施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	4	0	4	
		合計	14	14	14	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

②1 たいさい

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
たいさい	秋まき露地								◆	○	◇	×	×	4,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
秋まき露地	10a 0.2~0.3	基肥	20	20	20	・追肥は、播種後30日頃、生育状況に応じ実施。
		追肥	3	1	3	
		合計	23	21	23	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 施肥は基肥を中心に、追肥は株の状況を見て施用する。

②② のらぼうな

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
のらぼうな	露地		◇	◇						◆	○	◎		2,000
				×	—	×								

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
露地	ml/10a 20	基肥	6	6	6	・基肥は、緩効性肥料を施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	6	4	6	
		合計	12	10	12	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 十分な土づくりと基肥により、厳寒期に入る前に十分な生育をさせる。
- ウ 追肥は収穫始め及び3月中旬の分枝促進時期に行う。

②③ だいこん

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
だいこん	冬春まき トンネル	◆ ○	○	—	○	—	×	×						5,000 ～ 6,000
だいこん	夏まき								○	—	×	×		6,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス 〇トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
冬春まき トンネル	本/10a 5,500	基肥	10	10	10	・全量基肥施肥。 ・主根への障害に注意する。
		追肥	0	0	0	
		合計	10	10	10	
夏まき	5,000	基肥	10	16	10	・マルチ栽培では、全量基肥施肥。 ・主根への障害に注意する。
		追肥	0	0	0	
		合計	10	16	10	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

イ 未熟な有機物のすき込みは根の伸長を妨げることがあるので注意する。特に青刈り作物を作付けした後作は
岐根が発生しやすいので注意する。

ウ 根域が深くなるよう、膨軟な土層と排水がよく肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

2 施肥

ア マルチ栽培では全量基肥とする。

3 その他

ア 連作により土壌病害が発生しやすいため輪作を行う。

イ 土壌分析の結果に基づき、改良資材を施用しpH6前後に調整する。

②4 かぶ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
かぶ	春まき		◆	○	×	×								3,200
かぶ	夏まき					◆	○	×		○	×			3,500
かぶ	冬まき トンネル			×	×							◆	○	3,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス 〇トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数 本/10a		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
春まき	37,000	基肥	15	15	15	・全量基肥とする。
		追肥	0	0	0	
		合計	15	15	15	
夏まき	37,000	基肥	10	10	10	・全量基肥とする。 ・生育期間が短いので窒素の多肥に注意する。
		追肥	0	0	0	
		合計	10	10	10	
冬まき トンネル	37,000	基肥	12	15	12	・全量基肥とする。
		追肥	0	0	0	
		合計	12	15	12	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。
- イ 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 膨軟な土層と排水がよく肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

2 施肥

- ア リン酸、カリ、石灰の吸収量が比較的多い。リン酸の効果は明確でないがカリが不足すると生育が劣る。

3 その他

- ア 土壌酸度の適応性は広いが、pH5.5～6.5に調整する。
- イ 単位面積当たりの養分吸収量は他の根菜類と比べ比較的少ない。

②⑤ にんじん

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
にんじん	夏まき							◆ ○	◇		×		×	3,500
にんじん	冬まき トンネル	○			○		×	×					◆ ○	3,500

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ○トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
夏まき	本/10a 37,000	基肥	14	16	11	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	5	5	5	
		合計	19	21	16	
冬まきトンネル	30,000	基肥	20	20	20	・全量基肥施肥する。
		追肥	0	0	0	
		合計	20	20	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 有機質の投入や深耕により土壌の通気性を高める。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

②6 さつまいも

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
さつまいも	露地マルチ			○ 種芋 伏せ込み		◆				×	×			2,500

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
露地マルチ	本/10a 3,000	基肥	2	7	20	・全量元肥施用する。窒素過多に注意。
		追肥	0	0	0	
		合計	2	7	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 野菜後のような肥沃地では、良質な生産物ができないので計画的な輪作を行う。
- イ 品種に適したほ場の選定や肥沃度に合わせ栽植密度を調整する。

2 施肥

- ア 施肥は全量基肥とし、窒素過多に注意する。

3 その他

- ア 連作地では、つる割病、立枯病の発生が増加するため土壌消毒を実施する。

②7 さといも

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
さといも	露地			◆ ◎			◇				×		×	3,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
露地	本/10a 1,700 ～1,800	基肥	10	24	6	・元肥の施肥量は控えめにする。 ・初期生育の過繁茂は、いもの分球肥大に悪影響を及ぼすので注意する。
		追肥	10	12	12	
		合計	20	36	18	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

イ 根が十分張れるよう、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

ウ 未熟な堆肥の施用や深耕後植え付けまでに日数がないと、土壌が乾燥して発芽や初期生育に悪影響を及ぼすので注意する。

2 施肥

ア 子いも肥大最盛期に肥切れしないよう6月下旬に追肥を行う。速効性肥料の多肥は濃度障害の発生が心配されるので注意する。

②8 やまといも

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
やまといも	露地					◎	◇	◇						1,800
				×								×		

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a						
作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
露地	本/10a 5,900	基肥	0	0	0	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	17	17	19	
		合計	17	17	19	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。
- イ 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 根域が深くなるよう、膨軟な土層と排水がよく肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体に施用する。

3 その他

- ア 連作を行うと褐色腐敗病や根腐腐敗病の発生が多くなるため土壌消毒を行う。

②⑨ 葉しょうが

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
葉しょうが	露地早熟			○ ○	○ ○	○ ◇	◇ ◇	◇ ×	×					2,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス 〇トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
露地早熟	kg/10a	基肥	0	0	0	・基肥は、施用しない。 ・追肥は、3回に分けて施用する。
	1,500	追肥	16	16	16	
	~1,800	合計	16	16	16	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 植え付けほ場は、無病で十分な土づくりを行ったほ場とする。

2 施肥

- ア 高度化成の多施用は障害の発生が心配されるので注意する。

3 その他

- ア 連作を行うと根茎腐敗病等の発生が増加するため土壌消毒を行う。

③⑩ くわい

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
くわい	普通						◆ ◎	◎	◇	◇			× ×	1,300

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×－×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
普通	株/10a 4,800	基肥	25	30	25	・元肥は、代かき前に施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	13	0	13	
		合計	38	30	38	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、十分な期間をとるとともに、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 栽培期間中の用水を確保するとともに、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、代かき前に施用する。併せてリン酸質肥料を必ず基肥に一定量を施用しておく。
- イ 追肥は、葉かき前に2回に分けて施用する。
第1回目は株の養成及び匍匐茎の伸長、第2回目は塊茎の肥大充実を目的に施用する。

③ うど

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
うど	根株養成・軟化栽培	(根株養成)			◆	◎	◇	◇					×	2,000
		×	◎	×	◎	×						(軟化栽培)	◎	1,200

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ▽トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
根株養成・軟化栽培	株/10a 2,000	基肥	12	24	20	・基肥は、緩効性肥料を施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	4	8	12	
		合計	16	32	32	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、十分な期間をとるとともに、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 湿害の発生は減収につながる。排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。
- ウ 連作は病害虫の多発が心配されるので計画的な輪作体系を組む。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 窒素過多は茎葉の過繁茂を招き、根株の充実を悪くし、休眠打破の障害となるので注意する。
- ウ 追肥は生育状況を見ながら7月中旬までに終了させる。8月に入ってから追肥は、生育後半に肥料が効いて、根株の充実が悪く、休眠打破の障害になるので避ける。

3 果 樹

① なし（幸水）

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
なし	露地栽培	○	○		○	◇			×	×	◇		◆	3,000

凡例: ○人工受粉 △摘果 ×ー×収穫 ◎せん定 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

品種	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
幸水	62	基肥	15	20	11	11月下旬～12月上旬
		追肥	3	0	11	5月中旬
		追肥	4	0	0	9月上旬
		追肥	3	0	0	9月中旬
		合計	25	20	22	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥1トン/10aを施用し、土壌を改善する。施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 苦土、石灰については、土壌中の成分、酸度を考慮して施用する。

2 施肥

- ア 基肥施用前に、土壌診断を行い、施用量を決定する。
- イ リン酸が蓄積の傾向にあり、土壌診断により、基肥量を削減する。
- ウ リン酸が過剰の場合は、低リン酸肥料の活用を図る。
- エ カリが過剰の場合は、低カリ肥料の活用を図る。
- オ 礼肥は10月上旬以前に、速効性の化成肥料を施用し、基肥は11月下旬以後に施用し、凍害の発生を防ぐ。

3 その他

- ア 樹勢が低下した樹では、排水が良いほ場ではホールディガー等で主幹部から2m程度離れた場所に穴(直径30cm、深さ50cm程度)を掘り、堆肥を入れて埋め戻し、表面は土をかぶせ乾燥を防ぐ。1樹年2ヶ所程度実施する。
- 排水が悪いほ場では、滞水し根が湿害を受けるので実施しない。

なし（豊水・彩玉）

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
なし	露地栽培	◎	◎	○	△	◇			×	×	◇		◆	4,000

凡例：○人工受粉 △摘果 ×ー×収穫 ◎せん定 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位：kg/10a

品種	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
豊水	本/10a	基肥	15	20	11	11月下旬～12月上旬
彩玉	62	追肥	3	0	11	6月上旬
		追肥	4	0	0	9月中下旬
		合計	22	20	22	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥1トン/10aを施用し、土壌を改善する。施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 苦土、石灰については、土壌中の成分、酸度を考慮して施用する。

2 施肥

- ア 基肥施用前に、土壌診断を行い、施用量を決定する。
- イ リン酸が蓄積の傾向にあり、土壌診断により、基肥量を削減する。
- ウ リン酸が過剰の場合は、低リン酸肥料の活用を図る。
- エ カリが過剰の場合は、低カリ肥料の活用を図る。
- オ 礼肥は10月上旬以前に、速効性の化成肥料を施用し、基肥は11月下旬以後に施用し、凍害の発生を防ぐ。

3 その他

- ア 樹勢が低下した樹では、排水が良いほ場ではホールディガー等で主幹部から2m程度離れた場所に穴(直径30cm、深さ50cm程度)を掘り、堆肥を入れて埋め戻し、表面は土をかぶせ乾燥を防ぐ。1樹年2ヶ所程度実施する。
- 排水が悪いほ場では、滞水し根が湿害を受けるので実施しない。

② ぶどう

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ぶどう	露地栽培	◎	◎			○	◇	◇		×	×		◆	1,200

凡例:○開花 △摘房粒 ×ー×収穫 ◎せん定 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位:kg/10a

品種	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
巨峰	本/10a 31	基肥	4	8	4	11月下旬～12月上旬
		追肥	2	0	4	6月中旬
		追肥	2	0	0	7月上旬
		合計	8	8	8	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥1トン/10aを施用し、土壌を改善する。施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 苦土、石灰については、土壌中の成分、酸度を考慮して施用する。

2 施肥

- ア 基肥施用前に、土壌診断を行い、施用量を決定する。
- イ リン酸が蓄積の傾向にあり、土壌診断により、基肥量を削減する。

3 その他

- ア 樹勢の弱い樹や地力の低い地域は、9月中旬に2kg/10a施用する。

③ < り

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
< り	露地栽培	◎	◆	◎	—	○	○	◇	—	×	×	—	—	400
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

凡例: ○開花 ×-×収穫 ◎せん定 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

品種	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
利平 ぽろたん	本/10a 40	基肥	8	8	8	2月中旬
		追肥	4	0	4	7月上中旬
		追肥	4	0	4	9月下旬
		合計	16	8	16	

【施肥・土壌管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥1トン/10aを施用し、土壌を改善する。施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 苦土、石灰については、土壌中の成分、酸度を考慮して施用する。

2 施肥

- ア 基肥施用前に、土壌診断を行い、施用量を決定する。

3 その他

- ア 礼肥は収穫直後に施用する。

④ すもも

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
すもも	露地	◎	◎	○		△		×		◇			◆	2,000

凡例: ○開花 △摘果 ×ー×収穫 ◎せん定 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

品種	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
ソルダム	本/10a 40	基肥	9	12	8	11月下旬～12月上旬
		追肥	3	0	7	5月下旬
		追肥	3	0	0	8月下旬
		合計	15	12	15	

【施肥・土壌管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥1トン/10aを施用し、土壌を改善する。施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
イ 苦土、石灰については、土壌中の成分、酸度を考慮して施用する。

2 施肥

- ア 基肥施用前に、土壌診断を行い、施用量を決定する。

3 その他

- ア 基肥は11月下旬以後に施用し、凍害の発生を防ぐ。

⑤ うめ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
うめ	露地	—	○	○	△	—	×	◇	—	◇	—	◆	◎	1000

凡例: ○開花 △摘果 ×ー×収穫 ◎せん定 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

品種	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
白加賀 南高 紅梅	本/10a 40	基肥	10	10	8	11月下旬～12月上旬
		追肥	3	0	3	7月上旬
		追肥	3	0	3	9月上旬
		合計	16	10	14	

【施肥・土壌管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥1トン/10aを施用し、土壌を改善する。施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 苦土、石灰については、土壌中の成分、酸度を考慮して施用する。

2 施肥

- ア 基肥施用前に、土壌診断を行い、施用量を決定する。
- イ 緩効性肥料の活用も可能である。

⑥ ゆず

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ゆず	露地		◎	◆	◎	○	◇		△			◇	×	2,000

凡例: ○開花 △摘果 ×ー×収穫 ◎せん定 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

品種	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
在来	本/10a 40	基肥	11	11	11	3月上旬
		追肥	4	0	4	6月中旬
		追肥	7	7	7	11月中旬
		合計	22	18	22	

【施肥・土壌管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥1トン/10aを施用し、土壌を改善する。施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
イ 苦土、石灰については、土壌中の成分、酸度を考慮して施用する。

2 施肥

- ア 基肥施用前に、土壌診断を行い、施用量を決定する。
イ 緩効性肥料の活用も可能である。

⑦ キウイフルーツ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
キウイ フルーツ	露地	◎	◇			○	◇ △				×	×	◆	2,000

凡例: ○開花 △摘果 ×-×収穫 ◎せん定 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

品種	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
ヘイワード	本/10a 33	基肥	9	13	9	11月下旬～12月上旬
		追肥	3	0	3	2月下旬
		追肥	3	0	3	6月中旬
		合計	15	13	15	

【施肥・土壌管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥1トン/10aを施用し、土壌を改善する。施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
イ 苦土、石灰については、土壌中の成分、酸度を考慮して施用する。

2 施肥

- ア 基肥施用前に、土壌診断を行い、施用量を決定する。

3 その他

- ア 基肥は11月下旬以後に施用し、凍害の発生を防ぐ。

⑧ いちじく

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
いちじく	露地			◆		◇		◇	◇					2,500
				◎					×			×		

凡例:○開花 ×ー×収穫 ◎せん定 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位:kg/10a

品種	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
樹井ドーフィン	66	基肥	6	6	4	3月中旬
		追肥	4	3	3	5月中～下旬
		追肥	2	2	2	7月中～下旬
		追肥	2	2	2	8月下旬～9月上旬
		合計	14	13	11	

【施肥・土壌管理】

1 土づくり

- ア 良質堆肥1トン/10aを施用し、土壌を改善する。施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
イ 苦土、石灰については、土壌中の成分、酸度を考慮して施用する。

2 施肥

- ア 基肥施用前に、土壌診断を行い、施用量を決定する。

3 その他

- ア 秋肥は生育が低下した場合、9月下旬以前に速効性肥料で窒素成分1kg/10a程度の施用にとどめる。
イ 収穫段数は20段程度で、収穫段数によって施肥量を調整する。

⑨ ブルーベリー

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ブルーベリー	露地			◆		◇			ハイブッシュ	ラビットアイ				1,000
		○		○			×	×		×				

凡例: ○開花 △摘果 ×ー×収穫 ◎せん定 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

品種	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
ラビットアイ種 ハイブッシュ種	本/10a 125	基肥	4	3	3	3月中旬
		追肥	1	1	1	5月中～下旬
		追肥	1	0	1	8月下旬(9月下旬)
		合計	6	4	5	

【施肥・土壌管理】

1 土づくり

ア 土壌酸度を考慮して、ピートモスを0.6トン/10aを施用し、土壌を改善する。

2 施肥

ア 基肥施用前に、土壌診断を行い、施用量を決定する。

3 その他

ア 根が浅いため、株元に稲わら、麦わら等でマルチを行い、乾燥を防止する。

4 花・植木

① しろくじゃく

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
しろくじゃく	ハウス 促成栽培			◇		×-×						◆	◎	25,700
	季咲き 露地			◆ ○		◇ △	◇ △				×-×			37,500

凡例: ○さし木 △摘心 ◎定植 ×-×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
ハウス 促成	本/10a 8,900	基肥	15	12	11	・草姿に影響が少ない緩効性肥料を用いる。
		追肥	5	5	5	
		合計	20	17	16	
季咲き 露地	6,250	基肥	8	8	8	・追肥は、2～3回に分けて施用する。
		追肥	2	2	2	
		合計	10	10	10	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 完熟堆肥2～3トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。
ウ 吸肥力が強いので、多肥栽培するとシュートが長大になる。
また、側枝が伸びすぎたり主幹が木質化して品質低下するので施肥量に注意する。

② き く

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
きく	夏小ぎく 季咲き		◇		◇			△	△	◆				80,000
							×	×						
	季咲き 露地					○	○	△			×	×		35,000～ 45,000
	露地	○			◇			×					◆	35,000～ 45,000
	11月咲 小ぎく露地					◆	○	△		◇		×	×	90,000

凡例：○さし木 △刈り込み・摘心 ◎定植 ×ー×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
夏小ぎく 季咲き	本/10a 15,000	基肥	16	20	16	・追肥は、2月、4月の2回に分けて施用する。
		追肥	4	0	4	
		合計	20	20	20	
季咲き 露地	15,000	基肥	14	20	14	・追肥は、1～2回に分けて施用する。
		追肥	6	0	6	
		合計	20	20	20	
露地	15,000	基肥	14	20	14	・追肥は生育により1～3回に分けて施用する。
		追肥	6	0	6	
		合計	20	20	20	
11月咲 小ぎく	15,000	基肥	14	15	10	・追肥は、1～3回に分けて施用する。
		追肥	7	0	5	
		合計	21	15	15	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 完熟堆肥2～3トン/10aを施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。
ウ 緩効性肥料を中心に施肥をする。追肥は速効性のものを使用する。

3 その他

- ア 窒素過多、高温、水分不足により病害が発生しやすいので注意する。

③ てっぼうゆり

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
てっぼうゆり	促成栽培									◎	◆	◇	×-×	37,500

凡例: ○さし木 △摘心 ◎定植 ×-×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
促成栽培	球/10a 37,500	基肥	6	12	12	・追肥は速効性の化成肥料や液肥を用いる。
		追肥	3	0	0	
		合計	9	12	12	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害や出芽不良の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用時期については、計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 基肥は極わずかであるため、作条に施用する。
- ウ 追肥は生育期間が短いため速効性の肥料か液肥を用いる。

④すかしゆり

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
すかしゆり	半促成栽培			◆ ◎			×	×						50,000

凡例: ○さし木 △摘心 ◎定植(仮植) ×ー×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
半促成栽培	球/10a 50,000	基肥	10	10	10	・追肥は生育不良の場合のみ、2～3回に分けて施用する。
		追肥	0	0	0	
		合計	10	10	10	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害や出芽不良の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 品種やほ場の地力に応じた施肥を行うため、土壌診断により施用量を決定する。
- ウ 追肥は生育期間が短いため生育に応じて速効性肥料か液肥を用いる。

⑤ すかしゆり (OH・LO)

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
すかしゆり OH・LO	半促成栽培			◆ ◎		×	×							50,000

凡例: ○さし木 △摘心 ◎定植(仮植) ×—×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
半促成栽培	球/10a 50,000	基肥	9.6	9.6	9.6	・追肥は生育不良の場合のみ、2～3回に分けて施用する。
		追肥	0	0	6	
		合計	9.6	9.6	15.6	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害や出芽不良の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 品種やほ場の地力に応じた施肥を行うため、土壌診断により施用量を決定する。
- ウ 追肥は生育期間が短いため生育に応じて速効性肥料か液肥を用いる。

⑥ チューリップ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
チューリップ	促成栽培										◆	◎	×-×	90,000

凡例: ○さし木 △摘心 ◎定植 ×-×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
促成栽培	球/10a 90,000	基肥	15	10	10	・球根や生育状況に不良な場合のみ追肥する。
		追肥	0	0	0	
		合計	15	10	10	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害や出芽不良の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。

ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。

イ 特に球根の質が悪く、生育が著しく貧弱な場合は速効性の肥料か液肥を用いる。

ウ 石灰が欠乏すると根に障害を受け、開花前後に花茎が折れ曲がるので石灰を施用し、pHを6.5～7.0に保つよう注意する。

⑦ ストック

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ストック	ハウス栽培								◆	◇	◇		×-×	37,500

凡例: ○さし木 △摘心 ◎定植 ×-×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
ハウス栽培	本/10a 45,000	基肥	18	18	18	・追肥は速効性の化成肥料や液肥を用いる。
		追肥	4	4	4	
		合計	22	22	22	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植2～3ヶ月前に施用する。
- イ 品種やほ場の地力に応じた施肥を行うため、土壌診断により施用量を決定する。
- ウ 追肥は速効性の肥料か液肥を用いる。

⑧ キンギョソウ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
キンギョソウ	ハウス栽培		◇	◇	◇		×	◆	◎	◎	◇	◇	×	80,000

凡例: ○さし木 △摘心 ◎定植 ×ー×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
ハウス栽培	本/10a 30,000	基肥	20	20	20	・追肥は液肥を用いる。
		追肥	6	6	6	
		合計	26	26	26	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植1ヶ月前までに施用する。
- イ 品種やほ場の地力に応じた施肥を行うため、土壌診断により施用量を決定する。
- ウ 追肥は生育に応じて速効性の肥料か液肥を用いる。

⑨ とさみずき（枝物）

【栽培暦】

作物名	年次	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
とさみずき	1年目		◆ ◎			◇								1,850
	2年目		◆											
	3～5年	×	◆											
	6年目以降	×	◆											

凡例：◎定植 ×－×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位：kg/10a

施肥時期		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
基肥	2～6年(2月中旬)	11.2	11.2	11.2	
追肥	1年(5月)	2.4	2.4	2.4	
合計		13.6	13.6	13.6	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植1ヶ月前までに施用する。
- イ ほ場の地力に応じた施肥を行うため、土壌診断により施用量を決定する。
- ウ 定植年の追肥は活着後、早めに行う。

⑩ ぼけ（枝物）

【栽培暦】

作物名	年次	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ぼけ	苗さし木		◆								○			1,390
											◎			
	露地		◆											
	3		x											
	4		x											
	5		x											
	6年目		x		x									

凡例: ○さし木 △摘心 ◎定植 x-x 収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

施肥時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
基肥	2年	5.4	2.7	2.7	
	3年	5.4	2.7	2.7	
	4年	10.8	5.4	5.4	
	5年	10.8	5.4	5.4	
	6年～	30.0	15.0	15.0	
合計		62.4	31.2	31.2	・追肥は生育状況により調整する。

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体に施用する。

⑪ ベにきりしまつつじ（枝物）

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
べにきりしまつつじ	1年目		◆		◎	◇								1,500
	2年目		◆			◇								
	3年目		◆			◇								
	4年目		◆			◇								
	5年目		◆				◇			◇	◇			
	6年目	×	—	×										

凡例：◎定植 ×—×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位：kg/10a

施肥時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
基肥 1年	3.0	3.0	3.0	整地前に全面施用する
追肥 1年目追肥	2.0	2.0	2.0	
元肥・追肥 2年	5.0	5.0	5.0	元肥は2月に60%、追肥は5月に40% 元肥は2月に60%、追肥は5月に40% 元肥は2月に60%、追肥は5月に40%
元肥・追肥 3年	5.0	5.0	5.0	
元肥・追肥 4年	10.0	10.0	10.0	
追肥 5年目6月	11.0	11.0	11.0	
追肥 5年目9月	6.0	6.0	6.0	
追肥 5年目10月	6.0	6.0	6.0	
合計	48.0	48.0	48.0	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として施用する。
- イ 追肥は、生育状況に応じて施肥する。

⑫ しのぶひば（枝物）

【栽培暦】

作物名	年次	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
しのぶひば	1年目			○	○		◇			◇				16,000
	2年目			◆										
	3年目			◎	◎									
	4年目													
	5年目										×		×	

凡例: ○さし木 ◎定植 ×ー×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

施肥時期	N	P2O5	K2O	施肥の留意点
基肥	13.2	13.2	13.2	3年目定植時に全面施用
追肥 1年目 6月	2.4	2.4	1.5	
追肥 1年目 9月	4.8	4.8	3.0	
追肥 2年目 9月	4.8	4.8	3.0	
合計	25.2	25.2	20.7	3年分合計の数値

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 1年次の追肥は発根したらなるべく早く施用する。

⑬ うめ（植木）

【栽培暦】

作物名	年次	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
うめ	1年目		接木	○	◇							△	△	2,469
	2年目		◎		◇								◆	
	3年目													
	4年目										×			

凡例: ○さし木 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

施肥時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
基肥 2～3年目	10	8	8	2～3年目 ・追肥は生育に応じて施用する。
追肥 2～3年目	5	4	4	
合計	15	12	12	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病虫害の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体に施用する。
- イ 植え付け後2週間は施肥をしない。

⑭ うめ（鉢物）

【栽培暦】

作物名	年次	栽培暦(月)												目標収量 (鉢/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
うめ	1年目			○	◇									16,000
	2年目				◇									
	3年目				◇									
	4年目				◇									
	5年目				◇									
	6年目			◇	◇	◇	◇				×		×	

凡例: ○さし木 ◎定植 ×-×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

施肥時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
基肥	0	0	0	4月下旬
1年目	6	7.2	6	
2年目	7.2	7.2	7.2	
3年目	13.3	13	11	
4年目	22	22	22	
5年目	1.8	2.4	1.8	
6年目	—	—	—	追肥は、6号鉢に1つまみの油かすを与える。 6年分合計の数値
合計	50.3	51.8	48.0	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。

2 施肥

- ア 植え付け後1週間は施肥を控える。
イ 鉢上げ後は6号鉢に1つまみの油かすを3～6月の間に月1回を施す。

⑮ かいずかいぶき（植木）

【栽培暦】

作物名	年次	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
かいずかいぶき	3年目		◆				◇							2,350
	4年目		◆				◇							
	5年目		◆				◇							
	6年目										×			
				×							×			

凡例: ○さし木 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

施肥時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
基肥 5年目	18	8	9	・有機質肥料や緩効性肥料により施用する。
追肥 5年目	10	6	7	
合計	28	14	16	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病虫害の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料をまたは緩効性肥料を主体に施用する。
- イ ほ場の地力に応じた施肥を行うため、土壌診断により施用量を決定する。

⑩ つばき（植木）

【栽培暦】

作物名	年次	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
つばき	1年目			◆			◇	○						16,666
	2年目			◆	◎		◇							
	3年目			◆			◇							
	4年目			◆			◇							
	5～7年目										×			4,166
							×							

凡例：○さし木 △仮植 ◎定植 ×－×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位：kg/10a

施肥時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
基肥 2～4年目	10	9	9	・有機質肥料や緩効性肥料により施用する。
追肥 2～4年目	5	4	4	
合計	15	13	13	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体に施用する。

⑰ おおむらさきつつじ（植木）

【栽培暦】

作物名	年次	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
おおむらさきつつじ	1年目				○	○		○	○	○	○			7,823
	2年目		◆		◎		◇							
	3年目		◆				◇							
	4年目		◆				◇							
	5年目		◆				◇							
	6年目		◆							×		×		1,955

凡例: ○さし木 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

施肥時期	N	P2O5	K2O	施肥の留意点
基肥	6.4	6.4	6.4	・追肥は生育に応じて施用する。
追肥	10	6	6	
合計	16.4	12.4	12.4	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体に施用する。
- イ 土壌pHを5.5前後に維持する。pH5.5以上になると生育不良や葉が黄化するので注意する。
- ウ pHの高い場合は植え付け前に硫黄華(100～200kg/10a)を施用するか、硫安等の生理的酸性肥料を施用する。

⑱ どうだんつつじ（植木）

【栽培暦】

作物名	年次	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
どうだん つつじ	3年目			◆	◎					◇				10,000
	4年目			◆						◇				
	5年目			◆						◇				
	6年目			◆										5,000
										×		×		

凡例: ○さし木 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

施肥時期		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
基肥	3年目	7.2	7.2	7.2	
	5年目	10	8	8	
追肥	5～6年目	6	5	5	
合計		23.2	20.2	20.2	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体に施用する。

⑪ もみじ（植木）

【栽培暦】

作物名	年次	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
もみじ	露地		○	◆	=====			◇					△	3,000
	2年目			◎				◇						
	3年目			◆				◇						
	4年目			◆				◇						
	5年目			◆				◇						
	6年目			◆				◇						
										×			×	

凡例: ○接ぎ木(切接ぎ) = 無加温室管理 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

施肥時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
基肥	2年目	10	8	8	
	5年目	12	12	12	
追肥	5年目	6	4	4	
	6年目	5	5	5	
合計		33	29	29	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体に施用する。
- イ 植え付け後2週間は施肥を控える。

②0 いぬつげ（植木）

【栽培暦】

作物名	年次	栽培暦(月)												目標収量 (本/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
いぬつげ	2年目仮植			◆		△	△							6,000
	4年目定植			◆	◎				◇				◇	
	8年目整枝								◇				◇	1,955

凡例: ○さし木 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫・出荷 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

施肥時期		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
基肥	2年目	6	4	4	有機入りペレット肥料(植木専用)
基肥	4年目	14	12	12	
追肥	2～4年目	20	18	18	・追肥は生育に応じて施用する。
合計		40	34	34	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。
- ウ 堆肥の施用は計画的に施用し、定植までの期間を充分確保することが望ましい。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体に施用する。
- イ 定植後の施肥は、春肥(2～3月)60%、夏肥(8月)30%、冬肥(12月)10%に分けて施用する。
- ウ 12月の追肥は鶏ふん、有機質肥料を重点に施肥する。

5 茶

① 茶（成木園）

【栽培暦】

作物名	作型等	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
茶	せん茶・ 一、二番茶 摘採			春肥 ◆	芽出し肥 ◇		夏肥 ◇		秋肥 ※◆					800
						一番茶 ×－×	二番茶 ×							
茶	せん茶・ 一番茶摘採			春肥 ◆	芽出し肥 ◇				秋肥 ※◆					500
						一番茶 ×－×								

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 ×－×収穫 ◆基肥 ◇追肥 ※土作り(堆肥、石灰・苦土資材)

【施肥基準】

単位:kg/10a

作型等	栽植様式		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
せん茶・ 一、二番茶 摘採	一条植え・ 複条植え 1,800～ 2,200本／ 10a	春肥	9	7.2	9	夏肥は窒素成分を主体とした速効性肥料を使用する。 施肥回数を減らすため、硝化抑制剤入り肥料や被覆肥料など緩効性肥料を春、夏の年2回施用してもよい。(春肥18-8-9、秋肥18-8-9 合計36-16-18)
		芽出し肥	9	0	0	
		夏肥	9	3.6	4.5	
		秋肥	18	7.2	9	
		合計	45	18	22.5	
せん茶・ 一番茶摘採	一条植え・ 複条植え 1,800～ 2,200本／	春肥	12	6	7.5	
		芽出し肥	6	0	0	
		秋肥	12	6	7.5	
		合計	30	12	15	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥等の良質堆肥を1トン/10a施用する。
- イ 事前の土壌診断を基にpHが4.0～5.0になるよう本ぽの酸度矯正を行う。
- ウ 堆肥、石灰・苦土資材は秋肥前に施用し、秋肥との間隔を1週間以上空ける。

2 施肥

- ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決める。
- イ 幼木園の施肥量は定植当年は成木園の15%、2年目は50%それ以後1年ごとに10%ずつ増やす。
- ウ 化成肥料の1回当たりの施用量は窒素成分で15kg/10aを限度とする。
施肥後は必ず土と混和し、降雨による流亡、空気中への揮散などを防ぐ。
- エ 春肥及び秋肥は油粕や魚粕などの有機質肥料を主体とする。
- オ 芽出し肥は速効性肥料を使用する。

3 その他

- ア 秋肥前に深耕等によりうね間土壌の物理性を改善する。

6 飼料作物

①とうもろこし

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
とうもろこし	普通栽培		(早中晩生種)		○	—	—	—	×	—	×			4,000 ～6,000
			(早中晩生種)		◆	○	—	—	×	—	×			
			(早中晩生種)				○	—	×	—	×			
			(早中晩生種)					◆	○	—	×	—	×	

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

作型	栽植様式		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
普通栽培	点播 畦幅 70～80cm 株間15～ 24cm は種量2.5～ 3.0kg/10a	基肥	20	18	20	炭カル 100kg/10a
		追肥	0	0	0	基肥施用量は、基準値から堆肥の有効成分量を減じて施用する。
		合計	20	18	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 堆肥を約4トン/10a施用し、施用後は速やかに耕起する。

2 施肥

ア 施肥量は、堆肥の有効成分等を考慮して施肥基準値から減じて施用する。

イ ただし、堆肥を連年施用した場合は、窒素が過剰供給となる場合があるので、土壌・飼料分析などを行い、堆肥の施用や施肥を中止するか減量する。

ウ 水田転換畑1年目の施肥量は、3要素とも20～30%減らす。

3 その他

ア 水田転換畑では、地下水位20cm以下になるよう排水する。

② ソルガム

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ソルガム	普通栽培		(子実型)			◆	○		×					5,000 ~8,000
			(兼用型)			◆	○		×		×			
			(ソルゴー型)			◆	○		×		×			
			(スーダン型)			◆	○		×		×			
			(スーダングラス)			◆	○		×		×			
						◆	○		×		×			

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×ー×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【土壌・施肥管理】

作型	栽植様式		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
普通栽培	条播 は種量1.5~ 2.5kg/10a 散播 全面播 は種量2.0~ 3.0kg/10a	基肥	20	18	20	炭カル 100kg/10a 基肥施用量は、基準値から堆肥の有効成分量を減じて施用する。 2回刈りは、窒素成分で2kg/10aを追肥 スーダン型、スーダングラスの施肥量は、25%減量
		追肥	0	0	0	
		合計	20	18	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 堆肥を約4トン/10a施用し、施用後は速やかに耕起する。

2 施肥

ア 施肥量は、堆肥の有効成分等を考慮して施肥基準値から減じて施用する。

イ ただし、堆肥を連年施用した場合は、窒素が過剰供給となる場合があるので、土壌・飼料分析などを行い、堆肥の施用や施肥を中止するか減量する。

ウ 水田転換畑1年目の施肥量は、3要素とも20~30%減らす。

3 その他

ア 水田転換畑では、地下水位20cm以下になるよう排水する。

③ 牧草類：イタリアンライグラス

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
イタリアン ライグラス	普通栽培				◇					◆				5,000 ~7,000
					×-×				(短期利用)		○			
						◇	◇			◆				
						×	×	×	(長期利用)		○			

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

作型	栽植様式		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
普通栽培	散播 播種量1.5~ 3.0kg/10a	基肥	11	10	11	炭カル 100kg/10a
		追肥	4	0	4	基肥施用量は、基準値から堆肥の有効成分量を減じて施用する。
		合計	15	10	15	3回刈りとして、追肥2回

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 堆肥を約4トン/10a施用し、施用後は速やかに耕起する。

2 施肥

ア 施肥量は、堆肥の有効成分等を考慮して施肥基準値から減じて施用する。

イ ただし、堆肥を連年施用した場合は、窒素が過剰供給となる場合があるので、土壌・飼料分析などを行い、堆肥の施用や施肥を中止するか減量する。

ウ 水田転換畑1年目の施肥量は、3要素とも20~30%減らす。

エ 刈取るごとに、窒素、カリをそれぞれ2kgずつ追肥する。

3 その他

ア 吸肥性が強いので、糞尿を多量施用した場合は土壌中に硝酸態窒素が蓄積するので、硝酸塩中毒に注意する。

④ 麦類：エン麦

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
エン麦	普通栽培 年内刈 (極早生)						(年内刈)		◆	○			×	4,000 ~6,000
						×			(普通栽培)		◆	○		

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×－×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【土壌・施肥管理】

作型	栽植様式		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
普通栽培	条播4.0～	基肥	10	10	10	炭カル 100kg/10a 基肥施用量は、基準値から堆肥の有効成分量を減じて施用する。
	6.0kg/10a	追肥	0	0	0	
	散播6.0～ 8.0kg/10a	合計	10	10	10	

【施肥・土壌管理】

1 土づくり

ア 堆肥を約4トン/10a施用し、施用後は速やかに耕起する。

2 施肥

ア 施肥量は、堆肥の有効成分等を考慮して施肥基準値から減じて施用する。

イ ただし、堆肥を連年施用した場合は、窒素が過剰供給となる場合があるので、土壌・飼料分析などを行い、堆肥の施用や施肥を中止するか減量する。

ウ 水田転換畑1年目の施肥量は、3要素とも20～30%減らす。

3 その他

ア 水田転換畑では、地下水位20cm以下になるよう排水する。

⑤ 飼料用イネ（WCS用イネ）

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
WCS用 イネ	移植栽培					◆	◇			◇				3,000 ～3,500
	湛水直播					○	○	◇		◇	×	×		
	乾田直播				◆	○	○			◇	×	×		

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×－×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

作型	栽植様式		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
移植栽培	播種量	基肥	7	7	7	堆肥 1トン/10a
	2.5～	追肥	3	0	3	石灰 100kg/10a
	3.0kg/10a	合計	10	7	10	
湛水直播	播種量	基肥	6	6	6	堆肥 1トン/10a
	3.0～	追肥	3	0	3	石灰 100kg/10a
	3.5kg/10a	合計	9	6	9	
乾田直播	播種量	基肥	7	7	7	堆肥 1トン/10a
	4.0～	追肥	3	0	3	石灰 100kg/10a
	5.0kg/10a	合計	10	7	10	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 堆肥は完熟堆肥の利用を前提に、1トン/10aを施用する。

イ 未熟な堆肥の施用は、生育障害や出芽不良の原因となり、また過剰施用は病害虫の発生にもつながるので避ける。

ウ 堆肥の施用時期については、一毛田では春耕起時に、麦との二毛作体系では麦作の際に施用することが望ましい。

2 施肥

ア 施肥量は、堆肥の有効成分等を考慮して施肥基準値から減じて施用する。

イ 穂肥施用時期は、出穂前20～23日を目安とする。

○移植栽培

5月中旬移植の場合、移植後40日前後に窒素成分で2kgの追肥を行う。

○湛水直播

5月中旬播種の場合、7葉期頃に窒素成分で2kgの追肥を行う。

○乾田直播

基肥は、緩効性肥料を利用する。

普通化成肥料の場合は、基肥3、入水肥4に分けて施用する。

⑥ 飼料用米

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
飼料用米	移植栽培				○	◆			◇		×			700

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

作型	栽植様式		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
移植栽培	播種量	基肥	7	7	7	堆肥 1t/10a
	2.5～	追肥	4	0	4	石灰 100kg/10a
	3.0kg/10a	合計	11	7	11	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

堆肥を使用する場合、鶏ふんは化成肥料と同等に利用できる。

牛ふん堆肥1トン/10a施用するが、当該年度の効果は小さく、土づくりと考えて使用する。

2 施肥

追肥(穂肥)は、出穂前23～20日に行う。

Ⅲ 適正施肥を進めるための基準

1 県下主要耕地土壌の土壌管理目標値

	水 田			
土 壌 の 性 質	灰色低地土 グライ土 褐色低地土 灰色台地土 グライ台地土		多湿黒ボク土 泥炭土 黒泥土 黒ボクグライ土	
作土の厚さ	15cm以上			
すき床層のち密度	14～24mm			
主要根域群の最大ち密度	24mm以下			
日減水深	20～30mm			
pH(H ₂ O)	6. 0～6. 5			
陽イオン交換容量	15me	20me	25me	30me
塩基飽和度 %	70～93	66～86	65～82	64～79
石灰含量 mg	230～290	280～350	340～410	400～470
苦土含量 mg	40～59	56～75	71～91	87～106
カリ含量 mg	15～34	20～51	25～68	30～80
有効態-P ₂ O ₅	10mg以上			
有効態-SiO ₂	15mg以上			
可給態窒素含量	8～20mg			
土壌有機物含有量	2%以上		—	
遊離酸化鉄含有量	0. 8%以上			
電気伝導度	0. 2mS以下			

注) 水田

1. 主要根群域は、地表下 30cm までの土層とする。
2. 日減水深は、水稻の生育段階等によって 10mm 以上 20mm 以下で管理することが必要な時期がある。
3. 有効態リン酸は、トルオーグ法による分析値である。
4. 有効態ケイ酸は、pH4.0 の酢酸－酢酸ナトリウム緩衝液により浸出されるケイ酸量である。
5. 可給態窒素は、土壌を風乾後 30℃の温度下、たん水密閉状態で 4 週間培養した場合の無機態窒素の生成量である。
6. 土壌有機物含有量は、土壌中の炭素含有量に係数 1.724 を乗じて算出した推定値である。
7. 陽イオン交換容量以降塩基類含量は、埼玉の土壌実態を基に推計した。

	普通畑			
土 壌 の 性 質	褐色森林土 褐色低地土 灰色低地土 灰色台地土		黒ボク土 多湿黒ボク土	
作土の厚さ	25cm以上			
主要根域群の最大ち密度	22mm以下			
主要根域群の粗孔隙量	10%以上			
主要根域群の易有効水分保持能	20mm／40cm以上			
pH(H ₂ O)	6. 0～6. 5			
陽イオン交換容量	15me	20me	25me	30me
塩基飽和度 %	70～93	66～86	65～82	64～79
石灰含量 mg	230～290	280～350	340～410	400～470
苦土含量 mg	40～59	56～75	71～91	87～106
カリ含量 mg	15～34	20～51	25～68	30～80
有効態-P ₂ O ₅	10～75mg		10～100mg	
可給態窒素含量	5mg以上			
土壌有機物含有量	3%以上		—	
電気伝導度	0. 2mS以下			

注) 畑作

1. 水田の表の注) 3, 4, および 7 を参照すること。
2. 作土の厚さは、根菜類では 30cm 以上、特にゴボウ等では 60cm 以上を確保する必要がある。
3. 主要根群域は、地表下 40cm までの土層とする。
4. 粗孔隙は、降水等が自重で透水することができる粗大な孔隙である。
5. 易有効水分保持能は、主要根群域の土壌が保持する易有効水分量 (pF1.8～2.7 の水分量) を主要根群域の厚さ 40cm 当たりの高さで表したものである。
6. pH および有効態リン酸含有量は、作物または品種の別により好適範囲が異なるので、土壌診断等により適正な範囲となるよう留意する。
7. 可給態窒素は、土壌を風乾後 30℃の温度下、畑状態で 4 週間培養した場合の無機態窒素の生成量である。

	樹園地			
土 壌 の 性 質	褐色森林土 褐色低地土 灰色低地土 灰色台地土		黒ボク土 多湿黒ボク土	
主 要 根 域 群 の 厚 さ	40cm以上			
根 域 の 厚 さ	60cm以上			
主 要 根 域 群 の 最 大 ち 密 度	22mm以下			
主 要 根 域 群 の 粗 孔 隙 量	10%以上			
主 要 根 域 群 の 易 有 効 水 分 保 持 能	30mm／60cm以上			
pH(H ₂ O)	5. 5～6. 5 (茶園 4. 0～5. 0)			
陽イオン交換容量	15me	20me	25me	30me
塩基飽和度 % (茶園 %)	61～84 (40～54)	57～76 (33～49)	56～72 (33～46)	55～69 (31～42)
石灰含量 mg (茶園 mg)	200～260 (130～170)	240～310 (140～200)	290～360 (170～230)	340～410 (190～250)
苦土含量 mg (茶園 mg)	34～53 (20～34)	47～66 (27～42)	61～80 (35～50)	74～93 (42～57)
カリ含量 mg (茶園 mg)	15～31 (15～20)	20～45 (15～29)	25～60 (20～37)	30～70 (25～42)
有効態-P ₂ O ₅	10～30mg			
土 壌 有 機 物 含 有 量	2%以上		—	

注) 樹園地

1. 主要根群域とは、細根の70～80%以上が分布する範囲であり、主として土壌の化学的性質に関する項目（pH、CEC、塩基状態、有効態リン酸含有量および土壌有機物含有量）を改善する対象である。
2. 根域とは、根の90%以上が分布する範囲であり、主として土壌の物理的性質に関する項目（最大ち密度、粗孔隙量および易有効水分保持能）を改善する対象である。
3. 易有効水分保持能は、根域の土壌が保持する易有効水分量（pF1.8～2.7の水分量）を根域の厚さ60cm当たりの高さで表したものである。
4. 水田の注) 3, 4, 7 および普通畑の注) 4 および 6 を参照すること。

2 減肥基準

土壌診断値に基づく基肥の減肥割合

(1) 窒素

無機態窒素（硝酸態窒素）が $3 \text{ mg} / 100 \text{ g}$ 以上は肥料成分として換算。

(2) リン酸

有効態リン酸 ($\text{mg} / 100 \text{ g}$)	リン酸の施肥管理
80～100	20%減
100～200	40%減
200～300	60%減
300以上	無施肥

(3) カリ

基準値上限 + $10 \text{ mg} / 100 \text{ g}$ 以上は肥料成分として換算。

基準値下限 - $5 \text{ mg} / 100 \text{ g}$ 以下は肥料成分を増肥。

(基準値 = 土壌管理目標値のカリ含量)

＜埼玉県主要農作物施肥基準改定に当たった機関名＞

農業支援課
生産振興課
農産物安全課
畜産安全課
さいたま農林振興センター
川越農林振興センター
東松山農林振興センター
秩父農林振興センター
本庄農林振興センター
大里農林振興センター
加須農林振興センター
春日部農林振興センター
農林総合研究センター(略：農総研)
農総研畜産研究所
農総研森林・緑化研究所
農総研水田農業研究所
農総研園芸研究所
農総研茶業研究所
全国農業協同組合連合会埼玉県本部

平成 2 5 年 3 月 発行

発行者 埼玉県農林部農業支援課
〒330-9301 さいたま市浦和区高砂 3 丁目 1 5 番 1 号
電 話 0 4 8 - 8 3 0 - 4 0 4 7
F A X 0 4 8 - 8 3 0 - 4 8 3 3
E-mail a4040@pref.saitama.lg.jp